

1960年頃の隅田川
(東京都下水道局提供)



北区新神谷橋付近の隅田川
(撮影:白汚 零)



1960頃 >> 2024

歴史の教訓、下水道の使命



一般社団法人
東京下水道設備協会
三井田 健 会長

1960年代から1970年代前半、東京の河川の水質は、下水道未普及地域からの家庭排水や工場排水などの流入により、「死の川」と呼ばれるほど深刻な悪化を経験しました。

この状況を改善するために、下水道の普及が重要な役割を果たしました。

私たち一般社団法人東京下水道設備協会の会員企業は、日本最初の下水処理場である三河島水再生センターをはじめ、東京都の20の水再生センターや86のポンプ所などの施設に、機械・電気設備を納入しています。

この中には、流入する大量の汚水や雨水を地下深くからくみ上げるポンプ設備や、汚水から汚濁物質を沈殿分離してきれいにする沈殿池・反応槽設備、そして沈殿した汚泥を脱水・焼却処理する汚泥処理設備、さらに、これらの設備に電力を供給する電気設備や、機器を操作・制御する監視制御設備、停電に備えた非常用発電機といった設備があります。

当協会は、1984年4月3日に設立されてから、今年で40周年を迎えました。今後も高品質の設備機器で東京の下水道を支え、温室効果ガス排出削減など、時代の要請に応えるために努力し続けます。



東京都下水道局
佐々木 健 局長

東京の下水道は、1884年のレンガ積み「神田下水」に始まり、1922年には我が国初の下水処理場・三河島汚水処理場が運転を開始しました。

その後、急激な発展を遂げる東京の都市活動と都民生活を支えるため、下水道の普及に全力を挙げて取り組み、平成6年度には区部普及概成100%を達成するとともに、下水道設備技術の飛躍的な進歩により、東京の河川や海の水質は大幅に改善され、都民の皆さまに親しまれる水辺空間へと生まれ変わりつつあります。

一方、下水道施設の老朽化、激甚化・頻発化する豪雨や、いつ起きるとも知れ

ない大規模な地震などの課題に確実に対応していくことが求められています。このため、「経営計画2021」に基づき、長期的な視点に立ち計画的に施策を進めています。加えて、社会経済状況の変化に的確に対応するため、温室効果ガスの削減や下水汚泥の資源化、AI・デジタル技術の活用による効率化などの取組も強化しています。

先人が100年以上の年月をかけて築き上げてきた東京下水道を、さらにレベルアップし、将来世代に引き継ぐことができるよう、今後も全力で取り組みます。

おかげさまで
設立40周年



一般社団法人 東京下水道設備協会

アクアインテック株式会社／株式会社石垣／岩尾磁器工業株式会社／株式会社荏原製作所／株式会社クボタ／三機工業株式会社／住友重機械エンバイロメント株式会社／株式会社タクマ／月島JFEアクアソリューション株式会社／株式会社電業社機械製作所／東芝インフラシステムズ株式会社／巴工業株式会社／株式会社西島製作所／株式会社日立インダストリアルプロダクツ／株式会社日立製作所／日立造船株式会社／株式会社日立プラントサービス／前澤工業株式会社／三菱化工機株式会社／三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社／三菱電機株式会社／株式会社明電舎／メタウォーター株式会社
(五十音順)